

そう だい
総 題 「創世記」

だいはち か やくそく
第 8 課 約束

はなだのりひこ
花田憲彦

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

かみさま しそん とお しょこくみん しゆくふく ぜんじんるい すく すば やくそく
神様はアブラハムの子孫を通して諸国民への祝福と全人類への救いをもたらすという素晴らしい約束をし
ていただきました。そのために「信仰の父」として召されたアブラハムには、通過しなければならぬ試練が待って
いました。

に にちようび さん
2. 日曜日：モリヤ山

そうせいきにじゆうにしょう ご ささ ゆうめい ぼめん せいしよ なか はじ れいはい
創世記 22 章には、アブラハムがひとり子イサクを捧げる有名な場面がでています。聖書の中で初めて「礼拝」
という言葉が出てくる箇所、礼拝の本質について教えられている場面でもあります。ある日神様は、アブラハム
にびっくりするようなことをおっしゃいました。「アブラハム、あなたの愛するひとり子、イサクをモリヤの山でいけ
にえとして捧げなさい」。それはアブラハムにとってとんでもないことでした。100 歳になってやっと奇跡的に神様
から与えられた、かけがえのないイサクを、ほかでもない父なる神様が、「切り裂いて薪の上において火をつけ、い
けにえとして捧げなさい」と言われたのです。もちろん彼は今まで、神様に対しての信仰を告白してきました。で
も、今ここで神様は、口だけの告白ではなく、行動でその信仰を見せるように迫られました。アブラハムの信仰
を試し、彼の品性を練り清めるためです。

しよいつしやうじゆうにせつ しれん ことば ご つか
ヤコブ書 1 章 12 節に「試練」という言葉がでています。「ドキマゾー」というギリシャ語が使われていますが、
この言葉は、「高いところに引上げるという目的でテストする」という意味があります。モリヤまでの 3 日間の道の
りを息子イサクと旅する途中、アブラハムはどんなに心を痛めていたのでしょうか。

ぶぞく しゅうちやう ひとりむすめ ところあるとき ぶぞく まじゆつし かれ ぶぞく しゆくふく う
アフリカのある部族の酋長に一人娘がいました。ところがある時、部族の魔術師が、彼らの部族が祝福を受
けるためには、酋長の一人娘を生きたまま土に埋めなければならないと言出したのです。酋長は断ること
ができず、仕方なく承諾しました。祭りの日になって、部族全員が集まり、大きな穴が掘られました。いよいよ
酋長自ら、娘を抱いてその穴に落とそうとした時、娘が言いました。「お父さん、ちょっと待って。お髭
に土がついてるよ」。そう言いながら父の髭についた土を払おうとしました。それを見た酋長は突然こう言った
のです。「私はこの娘を亡くしたら生きていくことができません。私は今この瞬間から酋長を辞めて、村を
出て行きます」。彼はそう言うと、その場で酋長を辞めて即座に家族と一緒に村を出て行きました。

みつかかん しれん なか しんこう たし ひ あ ささ しゆ
この3日間の試練の中で、アブラハムの信仰は確かに引き上げられました。アブラハムは、イサクを捧げても主

はイサクを ^{よみがえ}蘇らせてくださるという ^{しんこう}信仰にまで至ったのです (ヘブル 11 : 19 参照)。

3. 月曜日：主は備えてくださる

アブラハムは、「子よ、^こ神みずから ^{ほんさい}燔祭の小羊を ^{こひつじ}備えてくださるであろう」(創世記 22 : 8) と言いましたが、これは「神はご自身を小羊として ^{そな}備えられる」という意味です。アブラハムはこの ^{いみ}試練を通して、やがて神のひとり子であるイエス・キリストを十字架でお捧げになる父なる神ご自身の人類への愛と痛みを共に経験することになりました。

私の ^{わたし}娘が1歳になった ^{ころ}頃、^{けが}怪我をしました。ストローが ^{のど}喉の奥に ^{おく}突き刺さってしまったのです。すぐに近くの ^{びょういん}病院で診てもらい、^{しゅっけつ}出血は収まりましたが、大きな ^{びょういん}病院で診てもらったほうが ^{いい}いいということで、^{さいけんさ}再検査を受けました。MRIをとってもらうために、^{えむあーるあい}嫌がる娘を ^いむりやり ^{だい}台の上に ^ね寝かせて、^{しば}ベルトで ^み縛ります。それを見て ^{こころぐる}ただけでも ^{だいじょうぶ}心苦しくて、「大丈夫だよ。すぐ終わるよ」と ^お声を ^{こえ}かけていたら、「はい、^{とう}お父さん ^{かあ}お母さん、^{そと}外に出てください」と ^い言われ、^{とびら}扉が ^し閉められました。^な泣き ^{さけ}叫ぶ ^{むすめ}娘の ^{こえ}声が ^{とびら}扉の ^む向こうから ^き聞こえます。家内と目が ^あ合ったとき、^{たが}お互い ^な泣き出してしまいました。

この時 ^{とき}私は、^{かみさま}神様の ^{あい}愛を ^{すこ}ほんの ^{まな}少しだけ、^き学ばされたような ^{かみさま}気が ^{さま}しました。神様は ^{じゅうじか}イエス様が ^お十字架にお ^かかかりになった ^{とき}時、^{くる}どんなに ^{おも}苦しい ^さ思いで ^{さま}それを ^{かみ}ごらんになって ^{じんるい}おられたか ^いということ ^{かみ}です。イエス様が、「わが ^{かみ}神、^{じんるい}どうして ^{かみ}わたしを ^{かみ}お見捨て ^{かみ}てになった ^{かみ}のですか」と ^{かみ}叫ばれた ^{かみ}時、^{かみ}神様は ^{かみ}沈黙 ^{かみ}する ^{かみ}しか ^{かみ}ありません ^{かみ}でした。人類 ^{かみ}を ^{かみ}愛 ^{かみ}する ^{かみ}が ^{かみ}ゆえ ^{かみ}の ^{かみ}神 ^{かみ}様の ^{かみ}痛み ^{かみ}を、^{かみ}アブラハム ^{かみ}も ^{かみ}イサク ^{かみ}を ^{かみ}捧 ^{かみ}げる ^{かみ}こと ^{かみ}を ^{かみ}通 ^{かみ}して ^{かみ}経験 ^{かみ}した ^{かみ}のです。

「神が、アブラハムにその子を殺すように命じられたのは、アブラハムの信仰をためすとともに、彼の心に福音を現実的に強く印象づけるためでもあった。あの恐ろしい試練の暗黒の数日間の苦悩は、人類の贖罪のために払われた無限の神の大犠牲を、アブラハムが自分の体験によって学ぶために神が許されたのである」(ガイドブック 60 ページより)

4. 火曜日：サラの死、水曜日：イサクの妻、木曜日：アブラハムの妻

創世記 23 章にはアブラハムの妻、サラの死と埋葬の記録があります。行く先を知らずして神の召しに従って出て行ったアブラハムを支えた妻の存在の大きさを示しています。同様に、アブラハムに対する神様の約束の成就のためにもイサクの結婚は重要な意味がありました。イサクが異教の影響を受けてしまうことがないように、アブラハムの信仰をしっかりと継承できるように、アブラハムはイサクの結婚についても祈りをもって慎重に進めていきました。神の召しに従ったのはリベカも同様です (創世記 24 : 58 参照)。アブラハムを通して与えられた神様の約束の最初の成就是、イサクの結婚物語を通して始まっていくのです。

7. 金曜日：さらなる研究

アブラハムは、「信仰の父」と称されるように、確かに偉大な信仰を持ち合わせていた預言者でしたが、エジプトでの出来事を通して自らの弱さを表わしたように、完全な品性を備えた人物ではありませんでした。しかし

かみさま じんるい たい すく けいかく わ あ しんこう こた
神様は、人類に対する救いの計画をアブラハムと分かち合われ、アブラハムも信仰をもってそれに応えていま
した。アブラハムの生涯は、信仰によって義とされるという信仰の模範を示しています。

まな ふか しつもん 学びを深めるための質問

- いち
1. アブラハムは、なぜイサクを捧げることができたのでしょうか？
- に かみさま ささ しれん あた
2. 神様は、なぜイサクを捧げるという試練をアブラハムに与えたのでしょうか？
- さん しれん とお なに まな
3. この試練を通して、アブラハムは何を学んだのでしょうか？
- よん けっこん こころ つ
4. なぜアブラハムは、イサクの結婚のために心を尽くしたのでしょうか？